

平成 28 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校  
 学校長 野 坂 尚 史

評 価 日	平成 29 年 2 月 7 日 (火)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>○琴の浦教育検証プロジェクト取組の意義は大きい。1 年の取組で終わらず、卒業生の状況を 5 年、10 年と続けて見ていけるような取組をお願いしたい。</p> <p>○卒業生の招聘やチューター制などで卒業生や上級生をモデルにし、主体性を引き出す取組は良い。主体性をテーマに、教師として、親としてのあり方も考えてほしい。</p> <p>○保護者や生徒の評価アンケートの結果は、ほとんどの項目で昨年より向上しており評価できる。少数の意見を細かく見ていくことも大切にしてほしい。</p> <p>○生徒アンケートの中で学習の分かりやすさについて評価が若干低い。対応が必要ではないか。</p> <p>○教員の評価アンケートは項目によっては評価のバラツキがある。ベクトル合わせを十分にする必要がある。</p> <p>2. 取組改善のための提言</p> <p>○検証プロジェクトの中で着目した「障がい理解、自尊感情」などの力を具体的にどう育てるか、今後の取組に期待したい。</p> <p>○知的障がいや発達障がいなどは周囲の人からはわかりにくく、本人に伝える力が育っていないと社会の中でうまくいかない。また、小さな達成感の積み重ねが支援を素直に受け入れる力にもつながる。</p> <p>○コースの選択方法の変更など職業学科の見直しには時間がかかる。積極的に情報収集をし、先を読みながら特色ある学校づくりを進めてほしい。</p> <p>○挨拶などの基本的な生活習慣の育成については家庭を巻き込んだ取組が必要である。一方で、就労を前提とした強い動機付け・学校の機運の高まりで育てるような取組も考えてみてほしい。</p> <p>○三年間では教育しきれないこともたくさんある。長い目を見た教育を考え、この学校ならではの発信をどんどんしてほしい。</p>		<p>○卒業生の追跡、学校教育への還元は今後も積極的に続けていきたい。</p> <p>○アンケート結果については少数意見も大切にし、丁寧に分析して取組に活かしたい。</p> <p>○「障がい理解、自尊感情」などの力の育成、コース編制の見直しも含めた学科の取組など、引き続き重点的に取り組む。</p> <p>○基本的な生活習慣は「働く心構え」の一つとして「心の道場開設事業」でも取り扱う。また、PTA活動の活性化を図る中で保護者の意識が高まるような取組を工夫したい。</p> <p>○学校からの発信については、さらに工夫を重ねたい。</p>